

2021 年度 自己点検・評価報告書

財務評価分科会

2022 年 3 月

基準 10 大学運営・財務

(2) 財務

点検・評価項目① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。

評価の視点

- 大学の将来を見据えた中・長期の計画等に則した中・長期の財政計画の策定
- 当該大学の財務関係比率に関する指標又は目標の設定

<大学の将来を見据えた中・長期の計画等に則した中・長期の財政計画の策定>

本学は、新たなグランドデザイン「Soka University Grand Design 2021-2030」で2030年度までの中長期計画を策定している。SDGs、ダイバーシティの各分野について計画を出し、これを支える経営基盤の構築として、中長期財政計画を策定している。

<当該大学の財務関係比率に関する指標又は目標の設定>

中長期財政計画では、本学の財政的課題である経常収支差額比率のマイナス水準について、2030年度において解消することを目標としている。

今後は具体的に支出抑制、収入増の目標も設定し、収支構造の健全化を図る。

点検・評価項目② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。

評価の視点

- 大学の理念・目的及びそれに基づく将来を見据えた計画等を実現するために必要な財務基盤（又は予算配分）
- 教育研究活動の遂行と財政確保の両立を図るための仕組み
- 外部資金（文部科学省科学研究費補助金、寄附金、受託研究費、共同研究費等）の獲得状況、資産運用等

<大学の理念・目的及びそれに基づく将来を見据えた計画等を実現するために必要な財務基盤>

教育活動収支差額は、補正予算額△41.5億円で、当初予算対比18.8億円良化の見込みとなった。良化の主な要因は、収入の部で周年寄付が順調に集まっていることで寄付金が当初の見込みを8億円程度上回る見込みとなったこと、支出の部で教育研究経費がコロナの影響による留学プログラム等の中止・縮小により、奨学金、旅費交通費等の支出が抑制され、10億円減少見込みとなったことによるものである。

教育活動外収支差額は、補正予算額+34.6億円で、当初予算対比0.9億円良化の見込みとなった。

経常収支差額は、補正予算額△6.9億円で、当初予算対比19.7億円良化する見込みとなった。

本学の特徴は、教育活動収支差額の支出超過を教育活動外収支差額で賄う構造となっている点にあるが、当初予算対比で大きく良化する見込みとなったものの、補正予算は支出超過となった。因みに経常収支差額については、2020年度決算は+10.4億円で、大きな収入超過の実績であった。ただし2020年度の補正予算は、△6.8億円の予算額であり、今回の2021年度とほぼ同額の予算であったところ、決算では大きな差異が生じた結果となった。差異の一つは寄付金で、予算を6億円余り上回ったこと、二つ目は教育研究経費・管理経費が合わせて予算を4億円近く下回ったこと、三つ目に教育活動外収支のうちその他の教育活動外収入（為替差益）が発生したことにより予算を6億円上回ったことなどで、補正予算より17億円良化した決算となった。

特別収支差額は、補正予算額は△6.9億円で、当初予算対比5.0億円の悪化見込みとなった。悪化の要因は、新施設建設の支払計画が翌年度に繰延べとなったことに伴う施設設備寄付金の減少によるものである。

基本金組入前当年度収支差額は、補正予算額△15.1億円で、当初予算対比17.5億円良化の見通しとなった。

<中長期財政計画に基づく寮費の改定とそれによる収支改善>

1. 2022年度以降の舎費改定案について、2. 中長期財政計画における舎費改定の考え方について、3. 定員充足率の向上を目指した寮運営について、4. 入寮費について、などを検討し、2022年度における増収を9千万円見込んでいる。

引き続き、2030年度までの中長期計画に基づく、財政の健全化に取り組む。